

会社概要

商号 オーエスジー株式会社
OSG Corporation
本社 愛知県豊川市本野ケ原三丁目22番地
設立 1938年3月26日
資本金 122億39百万円
従業員 連結7,489名 単独1,914名
事業内容 切削工具・転造工具・測定工具・工作機械・
機械部品の製造販売、工具の輸入販売

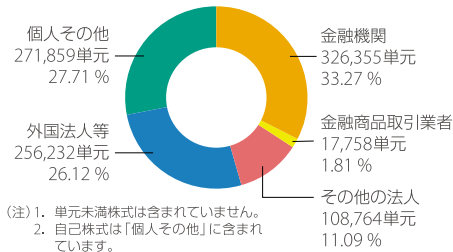
株式の状況

所有者別株式分布状況 (1単元の株式数100株)

発行可能株式総数
200,000,000株

発行済株式総数
98,196,724株

株主総数
7,561名



大株主

株主名	所有株式数(千株)	所有株式数比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	13,039	13.28
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	5,753	5.86
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	4,157	4.23
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE FIDELITY FUNDS	3,358	3.42
オーエスジーエージェンツ	3,219	3.28
オーエスジー持株会	2,566	2.61
公益財団法人大澤科学技術振興財団	2,350	2.39
株式会社三井住友銀行	2,100	2.14
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140051	2,095	2.13
野村信託銀行株式会社(投信口)	1,967	2.00

(注) 1. 所有株式数は千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 上記以外に自己株式 5千株があります。
3. 所有株式数比率は自己株式を控除して算出しております。

役員 (2022年2月18日現在)

代表取締役会長兼最高経営責任者(CEO)	石川 則男	上席執行役員	彦坂 光義
代表取締役社長兼最高執行責任者(COO)	大沢 伸朗	上席執行役員	米田 能崇
取締役(常勤監査等委員)	富吉 剛弘	執行役員	近田 幸典
取締役(監査等委員)	榊 佳之*	執行役員	Jeffrey Tennant
取締役(監査等委員)	高橋 明人*	執行役員	久留 俊弘
取締役(監査等委員)	原 邦彦*	執行役員	鈴木 康司
取締役(監査等委員)	山下 佳代子*	執行役員	杉原 健也
常務執行役員	大沢 二郎	執行役員	鄭 承鎮
常務執行役員	大沢 秀朗	執行役員	石田 修
常務執行役員	竹生 光志	執行役員	増岡 仁史

*取締役のうち、榊佳之、高橋明人、原邦彦、山下佳代子の各氏は社外取締役であります。

株主メモ

事業年度 毎年12月1日から翌年11月30日まで
定時株主総会 毎年2月開催
基準日 定時株主総会・期末配当 毎年11月30日
中間配当 毎年5月31日
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話0120-782-031(フリーダイヤル)
取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。
公告方法 電子公告によります。ただし事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は日本経済新聞に掲載いたします。
https://www.osg.co.jp/about_us/ir/kessan/
単元株式数 100株
上場金融商品取引所 東京・名古屋両取引所
証券コード 6136

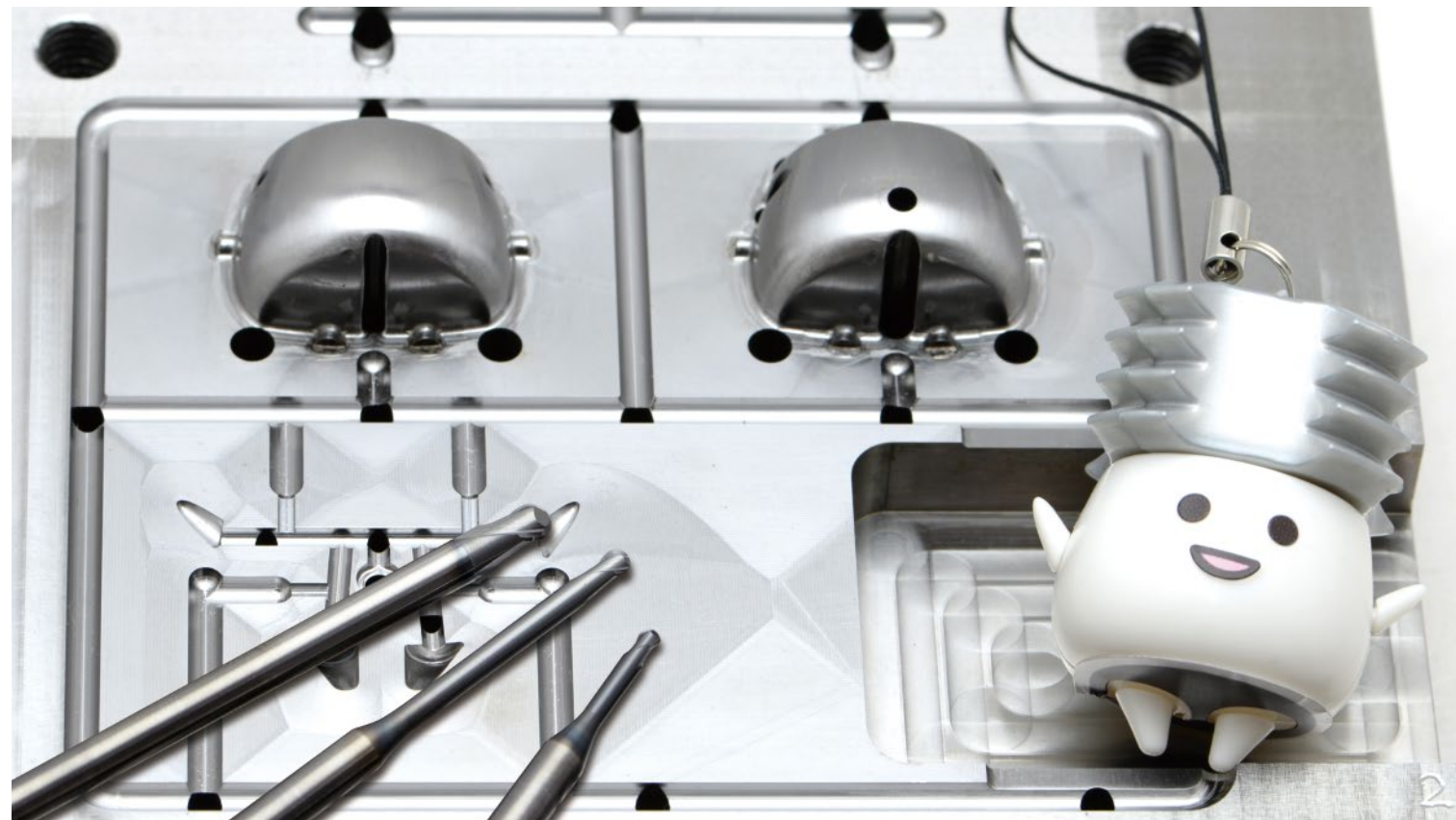


shaping your dreams

OSG 通信

第109期 通期のご報告

2020年12月1日 ~ 2021年11月30日



CONTENTS

株主の皆様へ	01	ESG Topics	07
新中期経営計画 Beyond the Limit 2024	03	財務データ	08
ESGへの取り組み	05	会社概要 / 株式の状況	11



オーエスジー株式会社

〒442-8543 愛知県豊川市本野ケ原三丁目22番地
TEL:0533-82-1111 FAX:0533-82-1131
<https://www.osg.co.jp/>



オーエスジー株式会社

証券コード: 6136



石川 則男
代表取締役会長 兼 CEO

大沢 伸朗
代表取締役社長 兼 COO

更なる事業効率の向上を目指して

2021年11月期を振り返って ～2019年度並みまでV字回復～

2020年11期は新型コロナウイルス感染症拡大により景気の大幅な後退を余儀なくされました。しかし2021年11月期は依然続くコロナ禍の中、中国や北米の経済回復、欧州における自動車産業の回復などに続き日本、韓国、東南アジアも回復し始め、世界経済全体の回復という明るい兆しがやっと見えてまいりました。

しかし一方で世界的な半導体不足、さらに東南アジアにおけるコロナ感染拡大によるロックダウンなどの影響により、部品生産の

稼働の大幅ダウンという事態に陥り、製造業のサプライチェーンにも大きな混乱が生じました。

このような大変厳しい経営環境の中、当社は長年にわたって築き上げてきたグローバルネットワークを活かし、対面とバーチャルのハイブリッドな営業活動を続けてまいりました。さらにグローバルな製造拠点を連動させることで、製品の安定供給を継続することができました。その成果として、2019年度並みの業績までV字回復を果たすことができました。

2022年11月期通期見通しについて ～成長のために「次の一手を」～

サプライチェーンの一時的な停滞、各種原材料の高騰など、当社の企業活動に大きな影響を与える要因が多数存在します。さらに、100年ぶりの大変革と言われる自動車産業におけるEV化も加速しています。地球温暖化、CO₂排出の環境問題も大きな課題となっています。このような情況に向き合いながら、当社は新たな活路を拓いて成長するための「次の一手」を進めてまいります。

例えば、今後も継続して成長するであろう半導体産業、あるいは微細精密加工など、今まで以上にシェア拡大をはかることのできる分野が多数存在します。そして、EV化という大変革の時代にあっても、当社の強みであるグローバルなチャンネルで新たなニーズを収集し、新技術の開発を加速してまいります。

今まで推進してきたM&Aにより、グループ会社も約90社ほどの規模になりました。今後は、新たに加わった会社とのPMIIにおいてしっかりとリターンの出せる経営を行い、クロスセリング政策の推進でグループ全体での最適化と利益拡大を追求します。製品戦略としては、Aブランド製品の拡充をはかり、当社の強みであるグローバルネットワークを活かして世界的に販売を強化します。

これらによって、2022年11月期は、グループ連結で売上高1,350億円、営業利益202億円を目指してまいります。

新中期経営計画について

当社では、新中期経営計画「Beyond the Limit 2024」を発表しました。「Beyond the Limit」という言葉には、「限界の向こうへ、限界を設けない、自らの殻を破る、常識を打破する」という決意を込めました。内容の詳細は、本通信の別ページにてご紹介しております。

不確実性の多いこのVUCA*時代において、更なる成長を目指し

ていくためには企業理念である「地球会社」のもと、ESG経営を軸に、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。そして企業価値向上を目指して長期的な成長を追求してまいります。当社を取り巻く外部環境の変化に対応するため、今後成長の期待される市場に経営資源を最も効率的に配分し、当社の強みである技術を活かして、モビリティ(EV)、微細精密加工、クリーンエネルギー、医療分野などにも注力してまいります。製品開発においても、環境へ配慮した技術開発に取り組みます。

人材に関しては、より多様性の求められる社会に対応できる社員の育成に努めてまいります。

事業効率を意識した活動を進めることこそ、当社が新中期経営計画の推進において、最も注力すべきことです。限られた経営資源を社員一人一人がいかに意識して、効率のよい方策を推し進めて行くかが、重要であると認識しています。

2022年11月期は、新中期経営計画「Beyond the Limit 2024」のスタートの年です。「オーエスジーの未来は、自分たちで創る!」という目標を掲げて、社員一丸となって邁進していく所存でございます。

ステークホルダーの皆様には、今後とも変わらぬご支援とご理解を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

*VUCA(ブーカ)とは:V(Volatility: 変動性)、U(Uncertainty: 不確実性)、C(Complexity: 複雑性)、A(Ambiguity: 曖昧性)の頭文字をとった造語。先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態。

新中期経営計画

Beyond the Limit 2024

当社の企業理念である「地球会社」のもと、持続的な企業価値向上に向けてESG経営の推進を柱とする中期経営計画を発表いたしました。まずは事業効率の再強化をこの3年間で図り、安定した経営資源を確保いたします。そして、急速に変化する事業環境に対応していくために利益の最大化を目指します。

The Next Stage (2011~2020)

【トップライン拡大期】

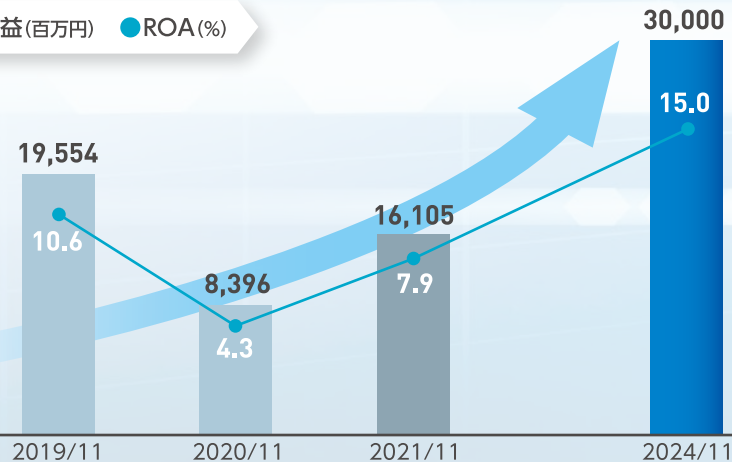
世界トップの
穴加工切削工具メーカー
となる

Beyond the Limit (2022~2030)

【カーボンニュートラル時代に向けて】

世界のモノづくり産業に貢献する
エッセンシャル・プレーヤーへ

● 営業利益(百万円) ● ROA(%)



中期経営目標 (2024年11月期)

ROA[※]
(営業利益ベース) **15%**

営業利益 **300億円**

※ROA(総資産利益率)
経営資源である総資産をいかに効率的に活用して利益に結びつけるのかで、企業の収益性と効率性を同じに示す経営指標です。(ROA(%))=営業利益÷総資産×100

長期ビジョン

世界のモノづくり産業に貢献するエッセンシャル・プレーヤーへ

Beyond the Limit (2022~2024) Stage1

- ▶ 収益性/事業効率を改善し、
強固な企業体質を作る
- ▶ Aブランドの標準品比率30%
- ▶ コーティング・再研比率10%
- ▶ 微細精密加工向け売上拡大、
エネルギー産業向け売上拡大
- ▶ Digitalを駆使した営業及び生産体制の確立

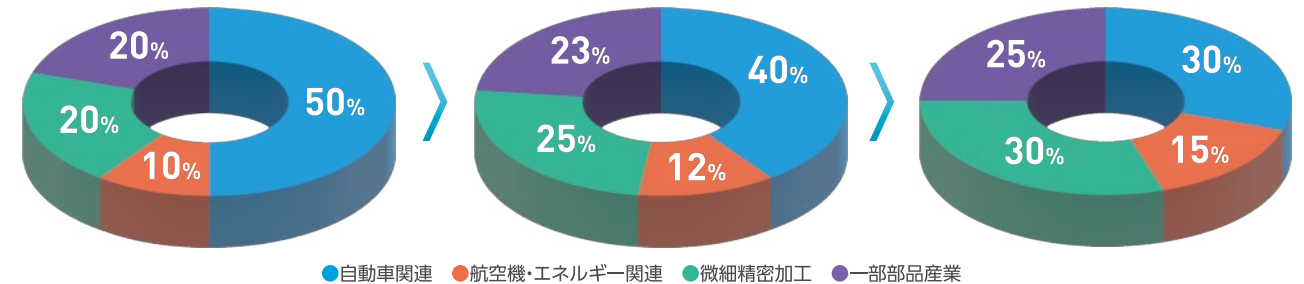
Beyond the Limit (2025~2027) Stage2

- ▶ トップ世界シェア40%を獲得
- ▶ Aブランドの標準品比率40%
- ▶ コーティング・再研比率15%
- ▶ Digitalなモノづくりのグローバル展開/
最適地生産
- ▶ 微細精密加工・エネルギー・
航空機産業売上拡大

Beyond the Limit (2028~2030) Stage3

- ▶ 顧客ポートフォリオ構成は
微細精密加工を30%以上にする
- ▶ 顧客のカーボンニュートラルに
貢献する企業へ

顧客ポートフォリオ



ESG経営の推進

オーエスジーグループは、独自の高付加価値な製品とサービスを通じて、世界中のモノづくり産業に貢献するエッセンシャル・プレーヤーとして、社会の持続的な発展に寄与することを目指します。

カーボンニュートラル宣言

当社では、製造プロセスにおける省エネルギーに以前より取り組んでおりますが、これを一層推し進め、グリーンエネルギーの利活用なども加えて、カーボンニュートラルを目指しています。2050年のカーボンニュートラル実現に向けて、具体的なアクションを立てて着実に進めてまいります。

株主還元方針

配当性向は、現在の公約配当性向30%を、2022年度から35%に引き上げます。今後は業績の推移を見ながら、40%の配当性向を目指します。また、自己株取得は、資本の状況、業績動向、当社の株価水準、成長投資機会、資本効率向上等を考慮し判断します。



世界のモノづくり産業を地球規模で支え、持続可能な社会の実現を目指します。

オーエスジーは切削工具等の製造・販売を行う総合工具メーカーです。当社を支えてくださっているステーキホルダーの皆様と恵まれた事業環境のおかげで、グローバル企業として世界にチャレンジし続け、日本が世界に誇る"モノづくり"を支えてきました。

オーエスジーの本社や製造拠点のある愛知県は、製造業が多く、中でも中央部に位置する安城市は、日本有数の製造業地域で自動車産業を広く支える企業が数多く存在します。しかし、こうした企業は国外の製造業のトレンドや大手自動車メーカーの経営状況などに影響を受けやすい立場にあります。そこで、幅広い産業育成の必要性を感じていた安城商工会議所は、2010年に地域ブランド育成のため「アンジョウハーツプロジェクト」を立ち上げました。

代表的な取り組みのひとつに、企業のノベルティグッズとしてペットボトルキャップをオリジナルのプラスチックモデルキットに再生する取り組みがあります。このプラスチックモデルの素材には、使用済みペットボトルキャップ(ポリプロピレン製)が使用されます。同じ地域の製造業として「アンジョウハーツプロジェクト」の挑戦に大きな感銘を受け、オーエスジーは、プラスチックモデルの金型を製作するために必要な金型材料と切削工具を提供し、この活動を支援しています。

ステーキホルダーの皆様へ

- ▶ OSGコーポレートサイトのご紹介
企業情報、製品情報、産業別ソリューション、ニュースリリースやIR情報など、さまざまな情報をタイムリーにお届けしています。

<https://www.osg.co.jp/>

- ▶ OSGサステナビリティサイトのご紹介
環境への取り組み、社会への取り組み、コーポレート・ガバナンス体制など、持続的な企業価値向上に向けた取り組みをご紹介します。

<https://www.osg.co.jp/sustainability/index.html>



▲表紙に掲載している「タップくんラモ」と金型

「タップくんラモ」ができるまで

Process Story

01

「タップくん」のご紹介

「タップくん」は、オーエスジーの公式キャラクターです。1938年創業のオーエスジーが最初に開発したハンドタップをイメージしたキャラクターとして誕生しました。オーエスジーのブランドアンバサダーとして製造業界、そして地域社会での企業宣伝に活躍しています。ここ数年、「タップくん」は日本の製造業をはじめ海外でも広く認知され、たいへん親しまれています。2019年初め、オーエスジーは「アンジョウハーツプロジェクト」を知り、ノベルティとして自社の人気キャラクター「タップくん」のプラスチックモデルである「タップくんラモ」を製作することを決めました。



▲タップくん

02

工具の選定

カスタムメイドのプラスチックモデルキットを作るには、キャラクターの3Dモデルの制作、金型設計・製作、射出成形といった工程が必要となります。オーエスジーの高硬度鋼用の新しい超硬ボールエンドミルシリーズを使用して、金型を製作しました。



▲より高速かつ高精度な金型加工を実現するオーエスジーの新しい高硬度鋼用超硬ボールエンドミルシリーズAE-BD-HとAE-LNBD-H

03

加工

オーエスジーのAE-BD-Hは、高精度仕上げ加工を実現する2枚刃超硬ボールエンドミルで、AE-LNBD-Hは、そのロングネック仕様です。どちらの工具にも高硬度鋼加工に最適化された超耐熱性・高じん性を発揮するオーエスジー独自のDUOREY(デュロレイ)コーティングが施されています。複数の狭い溝加工を必要とする「タップくんラモ」は頭部の加工が最難関でしたが、AE-BD-HとAE-LNBD-Hが抜群の性能を発揮しました。



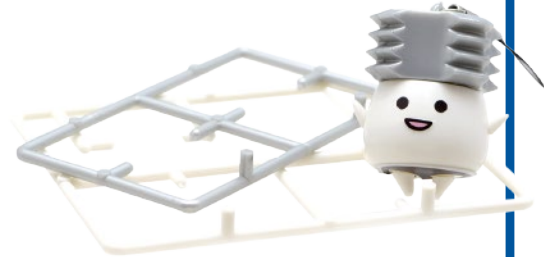
◀「タップくんラモ」加工の様子

▶ 使用したエンドミルと「タップくんラモ」胴体の金型

04

皆様のもとへ

オーエスジーは、イベントなどでお客様にお渡しするノベルティを毎年数多く制作しています。今回の「アンジョウハーツプロジェクト」との活動は100%リサイクル素材で作られていることもあり、特に意義深いものとなりました。これからも企業の成長、ステーキホルダーの皆様への貢献、そして持続可能な社会の実現を目指し、世界中のモノづくりの現場に最適な切削工具をお届けし続けることが、私たちオーエスジーの使命だと考えています。



▲組み立て後の「タップくんラモ」高さ約4センチのサイズ



「気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)」の提言に賛同

オーエスジーは、気候関連財務情報開示タスクフォース(Task Force on Climate-related Financial Disclosures、以下TCFD ※)の提言に賛同を表明しました。今後は、TCFDの提言に基づき、気候変動が事業に与えるリスクと機会の両面に関して、ガバナンス、戦略、リスク管理、目標と指標の4つの基礎項目に基づいて情報開示を進めてまいります。

※G20の要請を受け、金融安定理事会(FSB)によって2015年12月に設立されたタスクフォース。2017年6月に最終報告書を公表し、企業等に対し、気候変動関連リスク及び機会等に関する項目について情報開示することを推奨しています。



新型コロナワクチンの職域接種で安心して働ける環境づくりを

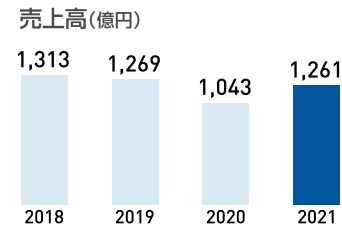
オーエスジーでは、「大切な人が安心して働ける環境づくり」を目指して新型コロナワクチンの職域接種を、グループ会社を含めた全社員とその家族を対象に7月～8月にかけて実施しました。仕事も、家庭生活もみんなで協力して安心して過ごせる環境を作りたいとの思いで、オーエスジーグループ一丸となって本プロジェクトを無事進めることができました。今後も感染予防対策を継続し、安心して働ける環境の維持に努めてまいります。



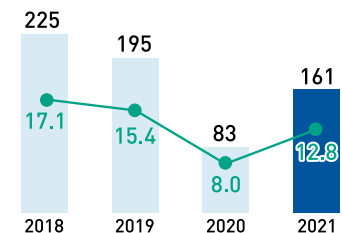
東京証券取引所の新市場区分「プライム市場」選択へ

オーエスジーは、2021年10月8日付の取締役会において、東京証券取引所(以下、東証)の新市場区分としてプライム市場を選択し申請することを決定しました。今後は、2022年4月の新市場への移行に向け、東証の定める申請スケジュールに従い手続きを進めてまいります。なお、2021年7月9日付で東証より、新市場区分における上場維持基準への適合状況に関する一次判定結果を受領し、プライム市場の上場維持基準へ適合したことを確認しました。

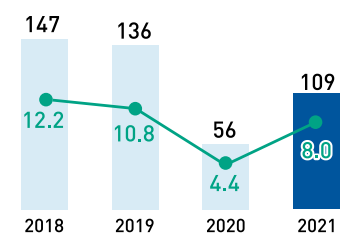
連結業績ハイライト



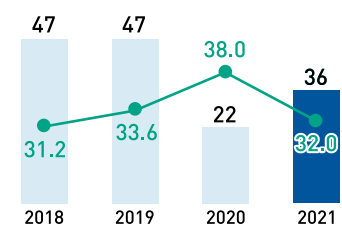
営業利益(億円) / ●営業利益率(%)



親会社株主に帰属する当期純利益(億円) / ●ROE(%)



1株当たりの配当金(円) / ●配当性向(%)



連結セグメント情報

製品別売上高

(単位:百万円)

	前期 19年12月1日～20年11月30日	当期 20年12月1日～21年11月30日	増減額
精密工具			
切削工具			
ねじ切り工具	33,671	43,239	9,568
ミーリングカッター	21,219	24,006	2,787
その他切削工具	29,484	35,721	6,237
切削工具合計	84,374	102,968	18,593
転造工具	7,947	10,052	2,105
測定工具	1,712	1,747	35
精密工具合計	94,034	114,769	20,734
その他	10,354	11,387	1,032
合計	104,388	126,156	21,767

所在地別セグメント業績

(単位:百万円)

	前期 19年12月1日～20年11月30日	当期 20年12月1日～21年11月30日	増減額	
日本	売上高	42,816	48,935	6,118
	営業利益	2,505	7,119	4,613
	営業利益率	4.3%	10.4%	
当期の営業概況	自動車関連産業向けは半導体等部品不足の影響があるものの現在は回復傾向です。一般産業向けも標準品の売上が増加し、増収増益の結果となりました。			
米州	売上高	18,818	21,915	3,096
	営業利益	1,640	3,173	1,533
	営業利益率	8.5%	14.1%	
当期の営業概況	北米では建機や石油関連などは好調で、受注も堅調です。南米も輸出が好調で売上が増加しました。コストダウンの効果もあり、増収増益の結果となりました。			
欧州 アフリカ	売上高	19,396	24,573	5,176
	営業利益	482	1,943	1,460
	営業利益率	2.5%	7.9%	
当期の営業概況	これまでにM&Aを行った会社とグループ間の協業による受注活動で、案件の獲得に注力しました。新たに新規連結1社も加え、増収増益の結果となりました。			
アジア	売上高	23,356	30,732	7,376
	営業利益	2,119	4,592	2,473
	営業利益率	8.4%	13.8%	
当期の営業概況	中国ではコロナ禍の影響からいち早く回復し、5Gや半導体、エネルギー関連は好調に推移しました。他アジアも順調に回復し、増収増益の結果となりました。			

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前期末 20年11月30日現在	当期末 21年11月30日現在	増減額
資産の部			
流動資産			
現金及び預金	37,807	46,795	8,987
受取手形及び売掛金	19,733	23,531	3,798
棚卸資産	42,025	42,839	813
その他	3,280	2,771	△509
貸倒引当金	△155	△179	△24
流動資産合計	102,691	115,757	13,065
固定資産			
有形固定資産			
建物及び構築物	24,685	24,191	△494
機械装置及び運搬具	34,500	32,600	△1,900
工具、器具及び備品	2,155	2,077	△77
土地	14,995	15,950	954
建設仮勘定	2,649	2,687	37
その他	612	748	136
有形固定資産合計	79,599	78,255	△1,344
無形固定資産			
のれん	4,273	4,638	365
その他	1,260	1,276	16
無形固定資産合計	5,533	5,915	381
投資その他の資産			
投資有価証券	6,182	4,292	△1,890
出資金	760	970	210
その他	5,710	5,012	△698
貸倒引当金	△366	△445	△79
投資その他の資産合計	12,287	9,829	△2,457
固定資産合計	97,420	94,000	△3,420
資産合計	200,112	209,757	9,644

(単位:百万円)

	前期末 20年11月30日現在	当期末 21年11月30日現在	増減額
負債の部			
流動負債			
支払手形及び買掛金	4,308	5,244	935
短期借入金	4,473	2,329	△2,144
1年内返済予定の長期借入金	8,522	1,615	△6,907
未払費用	6,062	7,593	1,530
未払法人税等	630	3,156	2,525
その他	3,324	5,890	2,566
流動負債合計	27,323	25,830	△1,492
固定負債			
社債	5,000	5,000	-
転換社債型新株予約権付社債	1,670	-	△1,670
長期借入金	22,103	20,136	△1,966
繰延税金負債	1,703	1,630	△72
その他	2,133	2,359	226
固定負債合計	32,609	29,126	△3,482
負債合計	59,932	54,957	△4,975
純資産の部			
株主資本			
資本金	12,223	12,239	16
資本剰余金	12,934	12,968	33
利益剰余金	111,594	120,192	8,598
自己株式	△1,442	△1,041	400
株主資本合計	135,309	144,359	9,049
その他の包括利益累計額			
その他有価証券評価差額金	1,105	778	△327
繰延ヘッジ損益	0	0	0
為替換算調整勘定	△7,076	△1,329	5,747
その他の包括利益累計額合計	△5,970	△547	5,423
新株予約権	13	-	△13
非支配株主持分	10,828	10,988	159
純資産合計	140,179	154,800	14,620
負債純資産合計	200,112	209,757	9,644

連結損益計算書

(単位:百万円)

	前期 19年12月1日～ 20年11月30日	当期 20年12月1日～ 21年11月30日	増減額
売上高	104,388	126,156	21,767
売上原価	65,715	76,969	11,254
売上総利益	38,673	49,186	10,513
販売費及び一般管理費	30,276	33,081	2,804
営業利益	8,396	16,105	7,708
営業外収益			
受取利息及び配当金	342	242	△100
補助金収入	1,127	394	△733
その他	802	702	△99
営業外収益合計	2,272	1,338	△933
営業外費用			
支払利息	243	255	12
売上割引	610	706	95
為替差損	416	-	△416
その他	448	335	△112
営業外費用合計	1,718	1,302	△416
経常利益	8,950	16,141	7,191
特別利益			
固定資産売却益	208	213	4
特別利益合計	208	213	4
特別損失			
投資有価証券評価損	90	-	△90
特別退職金	171	-	△171
特別損失合計	261	-	△261
税金等調整前当期純利益	8,896	16,354	7,458
法人税、住民税及び事業税	2,281	5,567	3,285
法人税等調整額	871	△514	△1,386
法人税等合計	3,153	5,052	1,898
当期純利益	5,743	11,302	5,559
非支配株主に帰属する当期純利益	103	312	209
親会社株主に帰属する当期純利益	5,639	10,989	5,349
1株当たり親会社株主に帰属する当期純利益	57.94	112.63	54.69

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前期 19年12月1日～ 20年11月30日	当期 20年12月1日～ 21年11月30日	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,038	26,982	9,943
投資活動によるキャッシュ・フロー	△17,133	△6,961	10,171
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,658	△14,264	△23,923
現金及び現金同等物に係る換算差額	△88	1,224	1,313
現金及び現金同等物の増減額	9,475	6,981	△2,494
現金及び現金同等物の期首残高	23,704	33,299	9,595
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	120	73	△46
現金及び現金同等物の期末残高	33,299	40,354	7,054

(注)「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、2018年11月期に係る連結財政状態については、当該会計基準を遡って適用した後の数値となっております。